

オーストラリアレポート

2021年に向けた豪州株式と豪ドル相場の見通し

- 国内外の要因により豪州株式は大幅に上昇。米国での大統領選挙に関わる不透明感の後退やワクチン開発への期待など豪州国外の要因や豪州での感染抑制による経済活動正常化期待などが株価上昇に寄与。
- コロナ新規感染者数は抑制されており、豪州経済は2020年7-9月期には景気後退を脱出する公算が高い。
- 豪州株式には相対的に高い予想配当利回りや今後の増配期待から見直し買いが入る可能性。
- 米バイデン政権下での米ドル安を背景に、2021年に向け豪ドル高予想が市場の大勢。

国内外の要因により豪州株式は大幅に上昇

2020年10月以降、豪州株式は大幅に上昇しています。豪州株式（S&P/ASX200指数）は+13.1%と二桁の上昇となり、米国のS&P500指数（+7.5%）やナスダック総合指数（+6.3%）、ドイツのDAX指数（+4.4%）などを軒並み上回っています（図表1）。足元の豪州株式の上昇を支える背景として、豪州国内外の要因で改善が見えつつあることが考えられます。

市場の焦点は米国大統領選から新政権の政策等へ

豪州国外の要因では、11月3日に投票が行われた米国大統領選挙が市場の大きな注目イベントとなりました。

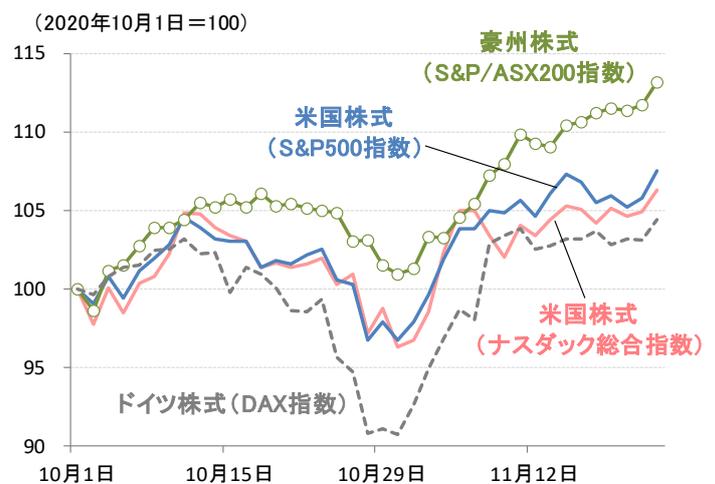
大統領選挙の結果は、民主党のバイデン氏の勝利が確定的となり、選挙に関わる不透明感が後退したことが株式市場にとって好材料となりました。

11月23日には米国政府機関の一般調達局（GSA）がバイデン氏に政権移行手続きの開始は可能と通知したほか、次期財務長官にイエレン前FRB（米連邦準備制度理事会）議長が指名される見通しとの報道がなされたことで、市場の焦点は選挙結果からバイデン新政権の政策運営へシフトし始めているようです（図表2）。

ワクチン開発の進展により景気回復期待が高まる

11月中旬以降、新型コロナウイルスのワクチン開発に進展がみられたことも株価の押し上げ要因になったとみられます。

足元では、米国ファイザーや米国モデルナ、英国アストラゼネカなどの医薬品各社が開発中のワクチンの高い有効性を示す治験結果を公表したことで、新型コロナウイルス感染拡大の収束と世界景気回復に対する期待が高まりつつあります。

図表1：2020年10月以降の豪州株式と欧米株式の推移


(出所) ブルームバーグ (期間) 2020年10月1日～11月24日 (日次)

図表2：2020年10月以降の主な出来事

日付	テーマ	出来事
10月6日	豪州政策	豪州政府が2020-21年度の予算案を公表
11月3日	豪州政策	豪州準備銀行（RBA）が追加の量的緩和策導入を決定
11月3日	米国選挙	米大統領選挙の投票日
11月7日	米国選挙	米大統領選挙で民主党のバイデン候補が勝利宣言
11月9日	ワクチン	米ファイザー、ワクチンの有効性を90%超と公表
11月16日	ワクチン	米モデルナ、ワクチンの有効性を94.5%と公表
11月17日	豪州政策	NSW州 ^(注1) 政府が予算案で大型の景気支援策を公表
11月18日	ワクチン	米ファイザー、最終的なワクチンの有効性を95%と公表
11月20日	ワクチン	米ファイザー、米当局にワクチンの緊急使用許可を申請
11月23日	ワクチン	英アストラゼネカ、ワクチンの有効性を平均70%と公表
11月23日	米政権移行	GSAがバイデン候補に政権移行手続きの開始可能を通知
11月23日	米政権移行	米紙が次期財務長官にイエレン氏を指名見通しと報道
11月24日	豪州政策	ビクトリア州政府が予算案で大型の景気支援策を公表

(出所) 各種報道

(注1) ニューサウスウェールズ州

豪州のコロナ新規感染者数は抑制されている

豪州株式上昇を支えた豪州国内の要因として、新型コロナウイルスの感染が抑制されていることが挙げられます。足元では欧米において感染再拡大への懸念が高まる中、豪州の新規感染者数は抑制されています（図表3）。

ワクチンが世界中に行き渡るには長い期間を要するとみられ、それまでの間は感染抑制策の重要性が引き続き高いと考えられます。

感染抑制から豪州の経済活動は正常化に向かう

豪州国内で感染が抑制されていること等により、豪州の個人や企業の経済活動にも正常化の兆しがみられます。

豪州における小売店・娯楽施設への客足は、コロナ前の約9割まで回復しています（図表4）。感染第二波によりロックダウン（都市封鎖）を導入したビクトリア州でも、足元の規制解除により小売店・娯楽施設への客足はコロナ前の約8割の水準を取り戻しました。

同じく、3月～5月のコロナ危機により急失速した豪州の企業活動にも、底堅さが戻りつつあります。豪州の11月の景気指数（PMI）は、製造業が56.1、サービス業が54.9といずれも企業活動の拡大・縮小の分岐点である50を上回る良好な結果となりました（図表5）。

豪州は2020年7-9月期には景気後退を脱出へ

コロナ危機等により2020年は1-3月期（前期比-0.3%）と4-6月期（同-7.0%）に2期連続のマイナス成長となった豪州経済ですが、7-9月期にはプラス成長に転じて景気後退を脱出する公算が高まっています。

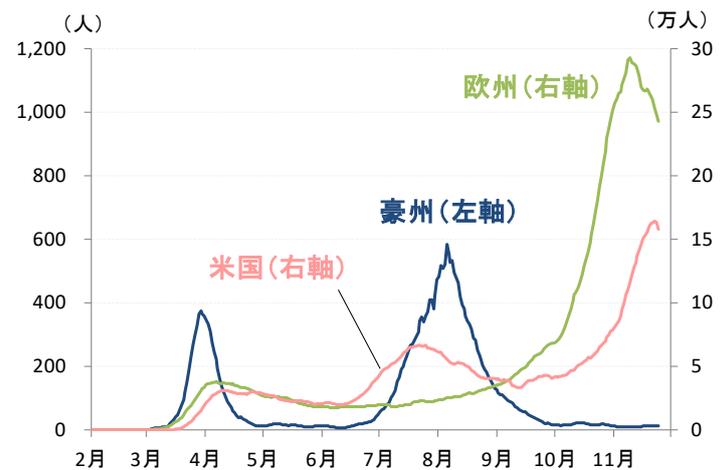
最新の市場予想では豪州の実質GDP（国内総生産）成長率予想が上方修正され、2020年7-9月期は前期比+1.9%のプラス成長が見込まれています。実質GDP成長率の前年同期比でも、2021年4-6月期には+5.8%へ回復が進む見通しです（図表6）。

図表6：豪州の実質GDP成長率の市場予想

	予想時点	2020年		2021年	
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
実質GDP	11月予想	1.9	1.7	1.1	1.2
前期比 (%)	10月予想	1.5	1.5	1.3	1.1
実質GDP	11月予想	-4.9	-3.9	-2.4	5.8
前年同期比 (%)	10月予想	-5.0	-4.7	-2.9	5.3

（出所）ブルームバーグ

図表3：新型コロナウイルスの新規感染者数の推移



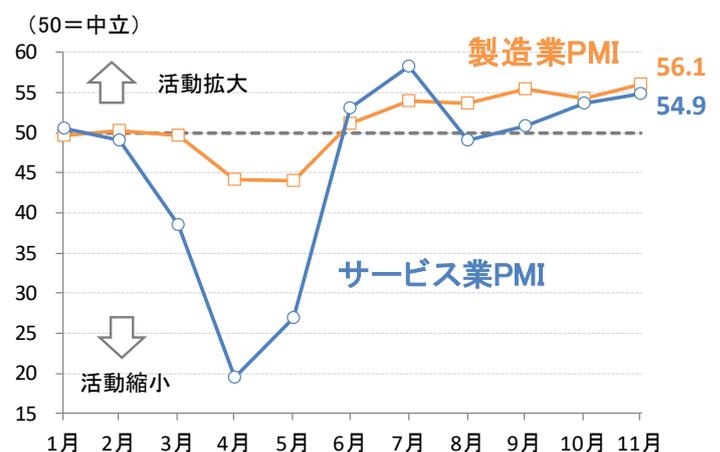
（出所）豪州公共放送ABC、世界保健機関、CEIC
（期間）2020年2月1日～11月24日（日次）（注）7日移動平均。

図表4：豪州の小売店・娯楽施設への客足の動向



（出所）グーグル、CEIC（期間）2020年3月1日～11月20日（日次）
（注）コロナ前の基準値と比較した訪問客数・滞在時間の変化率。基準値は2020年1月3日～2月6日の5週間に於ける該当曜日の中央値。対象はレストランやショッピングセンター、各種娯楽施設など。

図表5：豪州の製造業・サービス業景気指数（PMI）



（出所）豪州コモンウェルス銀行（期間）2020年1月～11月（月次）

ワクチンへの期待からバリュー株の見直し広がる

ワクチン開発の進展期待による先行きの景気回復期待の高まりからバリュー株への見直しの動きが広がっています。

米国大統領選挙前の11月2日を起点として米国のグロース株とバリュー株のパフォーマンスを比較すると、大統領選挙直後こそグロース株が大きく上昇したものの、ワクチンの有効性が相次いで公表された11月中旬以降はバリュー株優位の相場展開が続いています（図表7）。

ハイテク株の比率が相対的に低い豪州株式はバリュー株としての特性を備えており、今後、ワクチンの普及が進み、景気回復期待が高まれば、豪州株式にも一段の追い風要因になると考えられます。

豪州株式には配当利回りの面で投資妙味残る

豪州株式には配当利回りの投資妙味も残されていると思われまます。

11月24日時点で豪州株式の予想配当利回りは3.08%と、豪州10年国債利回り（0.89%）を依然として上回っています。特に豪州株式の中でも、豪州銀行株式や豪州REITなどは相対的に高い予想配当利回りが維持されています。

低金利の長期化で豪州株式に資金流入の可能性

豪州準備銀行（RBA）は当面の金融政策において雇用回復への支援を重視し、少なくとも今後3年間は利上げを行わない方針を示しています。また、11月3日のRBA理事会では、中長期国債を対象にした新たな国債買い入れ策が決定されました。現行の低金利環境が長期化する公算が高まる中、イールド・ハンティング（利回り追求）の面から豪州株式には資金が流入する可能性があります（図表8）。

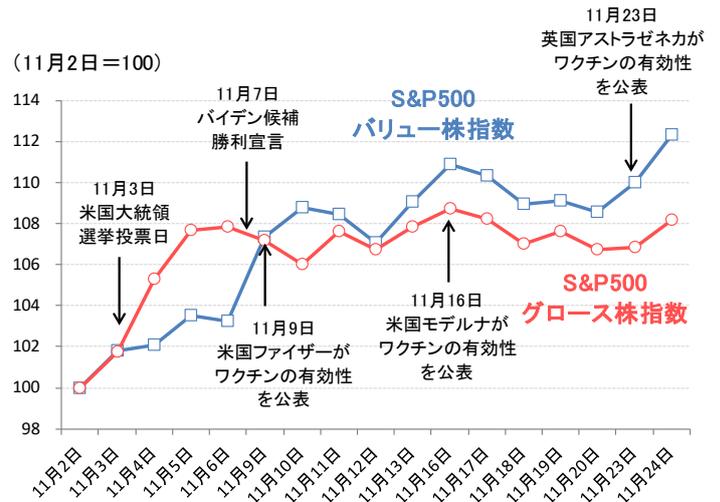
2021年以降、豪州企業の配当回復が見込まれる

2021年以降は豪州景気回復に伴って、豪州企業の収益や配当の回復が期待されます。

ファクトセット集計の市場予想では、豪州の主要企業の一株当たり利益は2021年に前年比+16.1%の増益へ転じる見通しとなっています。一株当たり配当に関しても、2021年に+15.9%、2022年に+8.2%と増配が予想されています（図表9）。

今後、年末から2021年前半にかけて豪州景気の改善がみられれば、豪州企業の増配に対する期待が一層高まる可能性もありそうです。

図表7：米国のグロース株とバリュー株の推移



(出所) ブルームバーグ (期間) 2020年11月2日～11月24日 (日次)

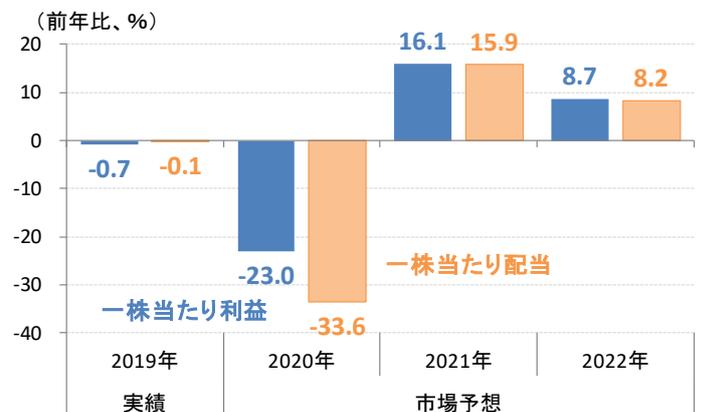
図表8：豪州の10年国債利回りと予想配当利回り



(出所) ブルームバーグ (期間) 2019年1月1日～2020年11月24日 (日次)

(注) 豪州株式はS&P/ASX200指数、豪州REITはS&P/ASX200REIT指数、豪州銀行株式はS&P/ASX200銀行株指数。

図表9：豪州の主要企業の利益と配当の見通し



(出所) ファクトセット (期間) 2019年～2022年 (年次)

(注) 主要企業はS&P/ASX200指数採用銘柄。市場予想は11月24日時点。

豪ドル相場はコロナ危機後に堅調な推移

豪ドル相場はコロナ危機の後、豪州株式の上昇に先行して豪ドル高となっています。足元の豪ドルの対米ドル相場は1豪ドル=0.73米ドル近辺とすでにコロナ前の水準を上回っています（図表10）。また、豪ドルの対円相場も1豪ドル=76円近辺で堅調に推移しています。

コロナ危機後の豪ドル相場の回復を支えてきたのは、①鉄鉱石価格の上昇などによる豪州の貿易黒字や、②コロナ危機一巡による世界の金融市場の正常化（危機時の米ドル買いの巻き戻しによる米ドル安進行）、などの要因とみられます。

量的緩和が拡大されるも豪ドル高は継続か

RBAは11月3日の理事会において、景気回復の支援のため、総額1,000億豪ドル（GDP比5%相当）の中長期国債の買い入れによる量的緩和策を公表しました。

しかし、豪州と米国の10年国債利回りはほぼ同水準である上、欧米でも量的緩和の拡大が見込まれることから、RBAの量的緩和によっても豪ドル相場の方向性は変わらず、豪ドル高は継続するものと思われます（図表11）。

バイデン政権下の米ドル安シナリオが市場の潮流

為替市場の潮流は、バイデン政権下での米ドル安進行シナリオに焦点が移りつつあります。

今後、財務長官にイエレン前FRB議長が起用され、米国の財政政策の面で景気支援を重視する姿勢が強まれば、一段と米ドル安が進む可能性があります。

2021年に向けた豪ドル高予想の見方が大勢

豪ドル相場の市場予想では、2021年に向けて一段の豪ドル高を予想する見方が大勢です。

直近の市場予想では、2021年末の豪ドルの対米ドル相場の予想中央値は0.76米ドル、対円相場の予想中央値は81.3円と、いずれも緩やかな豪ドル高基調が見込まれています（図表12）。

2021年には新型コロナウイルスのワクチンの段階的な普及が見込まれることから、投資家のリスク選好度が改善することが想定され、資源国の中で経済状態が良好とされる豪ドルへの投資意欲が高まる可能性があります。

図表10：豪ドル相場と米ドル指数の推移



（出所）ブルームバーグ（期間）2018年1月1日～2020年11月24日（日次）

（注）米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの価値を指数化したもの。

図表11：豪州と米国の10年国債利回りの推移



（出所）ブルームバーグ（期間）2015年1月1日～2020年11月24日（日次）

図表12：豪ドル相場の推移と市場予想



（出所）ブルームバーグ（期間）2019年1月1日～2020年11月24日（日次）

（注）点線は11月24日時点の市場予想。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>